



岩神小3年生に始めのあいさつ

関東森林管理局では、地元の小学生を対象に「子ども樹木博士」の認定活動を実施しました。

「子ども樹木博士」は、子ども達が樹木とのふれあい体験を通じて樹木を知り、森林や環境などについて学び、樹木や森林に関心を持つとともに、自然を大切にすることを養うことを目的としています。

森林に関わる大学、研究所、団体及び個人で構成するボランティア団体「子ども樹木博士認定活動協議会」が推進しているものであり、当森林管理局は、この活動の実施機関として登録しています。

計画部 指導普及課

**子ども樹木博士の認定
活動を実施**



班ごとに構内林木を観察する

10月24日(水)前橋市立岩神小学校の3年生74人は、学校の敷地内にある樹木の名前の由来や特徴などを学習し、最後に子ども樹木博士の認定試験にチャレンジしました。

当日は、6班に分かれて、指導普及課の職員から樹木の説明を受けました。子どもたちにとって、学校に生えている樹木の名前さえもほとんど知りませんでした。

樹木の特徴を知るため、葉・幹の形や肌触りなどよく観察するとともに、その名前前の由来やその樹木がどのように利用されるかなどについて、真剣に話を聞いてメモを取っていました。

アスナロやニシギといった「明日はヒノキになるう」と錦を飾れる立派な大人になるう」といった記念樹に込められた意味やキンモクセイ

前橋市立岩神小学校



九十九小の3年生と4年生にメグスリノキを解説

11月5日(月)安中市立九十九小学校の3年生14人と4年生9人は、小根山森林公園(群馬森林管理署管内の安中市松井田町)内にあるホオノキ、カシワ、メグスリノキなどの樹木のことや、カエデの種が子孫を増やすため、風を利用し種を飛ばすことを実験するなどの勉強をしました。

など花や香りでも季節を感じさせる木、中でも子ども達に人気があった樹は校庭のタラヨウで、葉っぱの裏側にキズをつけたあとがこげ茶色に変色し、文字が書けるので、「郵便局の木」とも言われているので印象が強かったようです。

子どもたちは勉強した樹木を思い出しながら「子ども樹木博士認定テスト」を受け、全員が樹木博士として認定されました。

安中市立九十九小学校



最後に子ども樹木博士認定テストを実施

当日は、3年生2班と4年生1班に分かれて、小根山森林公園の管理棟から歩いて15分程の展望台までの間に生えている樹木について、職員から説明を受けました。子どもたちは、良く話を聴いて内容をメモするとともに、葉の形や幹の模様などの特徴を観察していました。

樹木の観察では、トチュウの葉をちぎると白色乳液が糸を引く様子が珍しく興味深く観察していました。また、サンショウの葉からおいがすることを知らない子供が多く、「ほんとは、おいがする」と関心していました。

その後、公園管理棟内の講堂に移動して、樹木の特徴を思い出しながら、真剣に「子ども樹木博士認定テスト」に取り組んでいました。頑張った甲斐があり、全員が樹木博士に認定されました。